

3. 思い出

* 第7代会長 一杉 常昭	14
* 第8代会長 石川 雅之	15
* 第9代会長 斎藤 秀	17
* 沼津元理事長 初又 祥生	18
* 国鉄沼津クラブ 渡邊 章	20
* 沼津女子商業高校で活躍 吉川 昭子	22
* 第1回 小野杯クラブ対抗	23
* 全日本招待沼津軟式庭球大会	24
* 写真ランダム	25



私と沼津ソフトテニス協会

第7代会長 一杉 常昭

私が初めて沼津市軟式庭球協会（後に沼津軟式庭球協会に改定）主催のテニス大会に出場したのが昭和40年5月頃でした。会場は高沢公園内のクレーコート2面でした。その後沼津市役所東側の香陵グランド内のテニスコート（クレーコート4面）へ移りました。

昭和46年頃に菅沼孝行氏が女性のテニス人口増加を目的とした「女性初心者テニス教室」を毎週日曜日に開催しました。テニス教室は回を重ねる毎に女性のテニス愛好者が増えてきました。昭和47年5月頃に「沼津香陵グリーンクラブ」が女性クラブとして沼津で初めて設立されました。

テニス教室は沼津市民体育館が出来て昭和51年4月より土持玄了氏（元理事長）を中心 に香陵テニスコートより体育館へとテニス教室が移されました。テニス教室の開催日が従来の日曜日から水曜日へと変更になり又開催時間も18時30分からとなりました。参加されやすい時間となりテニス教室は回を重ねる度に盛況となり一時は抽選でないと入会できない時期もありました。テニス教室の卒業生が増えて、女性のクラブ「朝日テニスクラブ」他が誕生しました。

昭和54年に第一回沼津レディース大会が沼津西高で開催されました。競技種目はクラス（A・B・C）別でテニス教室参加者や教室の卒業生等大勢の参加者でぎわいました。特に教室の卒業生がBクラス及びCクラスで優勝した時には本人以上に私が喜んだのを良く覚えています。

沼津市民体育館が出来た頃より各地でインドア大会が盛んになりました。昭和57年12月19日に「全日本選抜沼津軟式庭球大会」を開催しました。全日本選抜3チーム静岡県選抜3チーム沼津選抜チームとで対戦しました。試合の当日は「全日本の選手」のプレーを見たい学生や一般のテニス愛好者で2階の観覧席は満員で熱気に溢っていました。

昭和52年頃に沼津市の香陵グランド総合計画によりテニスコートが移転する事となりました。沼津市体育課よりテニスコート移転の話があり半年余りの交渉が続きました。沼津軟式庭球協会としては現行のコート4面確保を第一条件として交渉の場につきました。移転場所は大岡公園内と提示がありました。市側の移転の条件は、① コート数は4面 ② コート仕様はクレーコート2面、砂入り人工芝コート2面 ③ コートのセンターに照明設備設置 ④ 将来はコートを2面にする等が示されました。市側への協会からの申し出としてコート仕様（砂入り人工芝）の統一と将来共にコートを4面残してほしい旨の交渉を続けました。しかし、大岡公園内に新たにコートを造るので地元自治会の同意が必要のために最終的には市側の条件でコート移転をする事となりました。昭和54年5月に沼津市長他関係者が多数参加されて盛大にテニスコート開きが行われました。

さて、現在では大岡コートは4面が確保され、テニス愛好者で大いに賑わっており、また、環境の良い場所でテニスができる喜びも感じています。

愛鷹コート誕生



第8代会長 石川 雅之

2002年(平成14年)3月31日愛鷹運動公園テニスコート開設記念式典が行われました。待ちに待っていた12面の砂入り人工芝のコートです。それまでの市営コートは大岡公園にあったクレーの4面だけでした。県東部の中心都市沼津としてはあまりにも寂しいことで、大きな大会を開けるコートをと長い間切望していたのでした。

それより20年ほど前、県営の総合運動施設を愛鷹に造るという話が立ち上りました。市の体協を中心として各競技団体の動員のもと創設促進大会をたびたび開いて県に要望していった結果やっと施設の開設にこぎつけましたが残念なことに私たちが求めていたテニスコートは含まれませんでした。挫折を乗り越えて、その後市営テニスコートの創設へと運動を継続し、ついにその実現を得ることができました。そこに至るまでには、コート以外の付帯設備(駐車場、観覧席、防風ネット、トイレ、四阿、案内板)等の細かい内容もあり、いろいろと紆余曲折しつつも、最終的には市議員建設水道委員会委員長の水口 清久氏、テニス協会会长の山崎 篤氏、ソフトテニス協会会长の石川 雅之の連携した取り組みが大きな力になりました。

● 市営愛鷹運動公園テニスコート

12面 (全天候型砂入り人工芝)	面積 2.0ha	総事業費 5.03億円
丘陵地の造成の為4段に分ける	平成10年度工事着手	平成14年3月完成

今後の課題として、駐車場の確保、上段コートの観覧席の造成、コートの増設等が挙げられます。また、愛鷹コートをつくるときの条件の中に、大岡公園コートは廃止するという一項もあり、その存続に向けて続けて陳情・交渉を繰り返した結果、現在の状態で大岡コートが利用できております。今後も大事にしたいものです。



愛鷹運動公園テニスコート オープニングセレモニー



1～4 コートの景色

ソフトテニスの発展に願いを込めて



第9代会長 齋藤 秀

数多くの優秀な人材と選手を輩出し、ますます近代化をはかり、発展している沼津ソフトテニス協会の創立70周年記念を心よりお祝い申し上げます。

私が1970年に東京から工場移転の関係で、沼津に異動した当時、明電舎のソフトテニス部は発足して間もない時でした。その2～3年後、沼津市の大会に参加した際、優秀な選手の多さに驚いたこと思い出します。

1987年から2000年まで仕事の関係で、群馬県太田市と東京に転勤し、13年間沼津を離れました。2001年に再び沼津市に戻り、沼津ソフトテニス協会にお世話になりました。群馬県太田市と東京品川区でソフトテニスの行事を経験しましたが、沼津市の行事や参加クラブの多さを感じていました。当時から比べると、クラブ数が減少していることを残念に思っています。

私がテニスを始めたきっかけは小学6年の時で中学生の練習を見ていた時、“やってみるか”と誘われたことです。私は何事も“子供の時から機会を与えることが大切”であると思っており、太田市在住の時に、小学生を集めて指導する知人の手助けをしていました。そのような経験を経て、2003年4月原ジュニアソフトテニスクラブ創設しました。早いもので15年目を迎えます。原ジュニアから卒立って行った多くの子供たちが、中学・高校・大学・社会人で活躍し、ジュニア時代を思い出して指導に来てくれていることはとても嬉しいことです。そして行く末、沼津ソフトテニス協会への協力者となってほしいところです。

さて、協会の活動については冒頭に述べさせていただきましたが、近年、協会運営のシステムが近代化されたことに驚いています。パソコン、電話、複合機、インターネット接続等を揃えて協会専用の事務所を立ち上げくれました。また、電子メール、ホームページで情報の交換を行っています。これらは、事務長であった井出邦雄氏、吉村貞幸氏、現事務長の村中優氏の近代化提案によります。大変すばらしい改革であり、事務局の仕事の効率アップと過去の記録を正確に残すことができるようになりました。

また、70周年記念誌発行にあたり歴代の記憶・記録などの調査や編集に携わった役員の皆様や協力をしていた方々に感謝と敬意を申し上げます。

私は第9代会長を6年間務めさせていただきましたが、先任者の第8代会長石川雅之様や役員の皆様とで敷かれた方針に沿って多くの方々のご協力と支援をいただきました。特に25年間にわたり副会長を務められた庄司順子様には多くのアドバイスをいただきました。

最後に、本協会が沼津市体育協会のスローガン“スポーツの香りのする沼津”に貢献し、益々、発展されることを祈念申し上げます。



行動は力

初又 祥生

沼津市立第2中学校入学時からテニスを始めておおよそ60年、この間に数多くの思い出があります。

当時の中学校では学校教育の一環として、全員何れかのクラブに所属し活動することを求められていきました。当時の各運動部の施設は、恵まれているとはいはず、バレー、バスケットは屋外のグラウンドで、卓球、柔道は教室の一部を使用して活動していました。ソフトテニス部（当時、軟式庭球部）は校庭の片隅にコート1面で、部員数は男女それぞれ30人という状況でした。当然、全員が十分な練習は出来ず、女子は校外の営林署コートを借りての練習でした。男子も1年生の夏休み前まではコート上でボールを打つ機会は非常に少なく、コート整備、ランニング、球拾い、素振りの毎日でした。決して楽しいといえる状況ではなく、毎年、当初20～30人が入部した1年生は、夏休みを迎えるころには10人未満に減るのが常でした。

ソフトテニス部は市内大会で、ほぼ毎年優勝するほどの中学校でしたが、顧問教師がコートに出てくることは少なく、指導もほとんどなく、10歳以上を筆頭としたソフトテニス部OB、その他の方々の指導による影響、及び、上級生の指揮のもと生徒の自主性による活動の成果でした。

初めての試合は、中学1年生の時の沼津市新人戦で3位入賞でした。翌年、2年生の時の新人戦で初めて優勝しました。団体戦では、心身ともに優秀なメンバーと3年生の時の夏、中体連沼津市内大会優勝、東部大会準優勝、浜松鹿谷コートで行われた静岡県大会で優勝を収めることができました。当時、個人戦は市内大会まで、団体戦は県大会まで、もし、全国大会等があったら全国制覇も夢ではなかったチームレベルであったと思います。

その後の沼津工業高校時代は、厳しく、長く、ボールが見えなくなるまで練習を行っていました。夏は練習が終了する時間が遅くなる毎日で、路線バスの時間に間に合わず、電車通学の部員は、沼津駅まで歩かざるを得ない状況でした。一部の上級生の指導と称したイジメの類もありました。春休みと夏休みには、1週間の合宿練習があり、宿舎は学校の教室を使い、長椅子を2個向かい合わせにし、各自が電車やバスや自転車等で運んだ布団を敷き、ベッドにしていました。学校に風呂はなく、水道水で体を洗いました。毎日、コートに来て見守ってくれた顧問、（故）小栗先生の指導は専ら精神面の指導でした。技術面は、度々、指導に来たソフトテニス部のOBや生徒同士のアドバイスが主体でした。

当時、市内の高校の沼津東、沼津商業、沼津市立、沼津工業の各高校は毎年のごとく、全国大会、国体へ出場し良い成績も納めていました。

そんな中、2年生の時、インターハイ静岡県予選、ゲームカウント2-3、ボールカウント1-3から相手のダブルフォルトにも救われ逆転し、全国大会出場が決まった試合が強く印象に残っています。

社会人となり、千本クラブ等をベースにソフトテニスを続けました。休日等の限られた中での練習環境になりましたが、ソフトテニスができるチャンスを逃さず、練習しなかった日は年間2日のみという年もありました。そんなささやかな努力に対するソフトテニスの神様からのご褒美でしょうか、昭和42年県選手権初優勝することができました。昭和43年東海浜松大会の決勝でアキレス腱断裂棄権の負傷も、仲間の皆さんに背負われて帰り、1ヶ月の療養でほぼ完治した思い出もあります。団体戦では、藤本昌男、石川延房さん等の良きメンバーに恵まれ、昭和47年、48年全国クラブ大会で、千本クラブ2連覇を達成しました。

良きパートナーにも恵まれ、昭和47年東日本選手権3位入賞、昭和51年全日本社会人東西対抗5組連覇、昭和53年東日本選手権（成年）優勝、等々の成績を上げることができました。多くの様々な体験を得られたことを幸せに思います。

改めてスポーツの意義を考えてみると、鍛錬により強い体力、心の向上を得、そしてその間、先輩、同僚、後輩等の人間的交わりから老若男女を問わず、教わり、教え、諸々の体験とそして良き友人関係を得られることは何事にも代えがたい素晴らしい幸せなことと感じます。

これらのこととは良き人間社会の構築、世界の平和にも通じる面もあるかと思えます。今後もその一環として、協会、クラブ、OB会等の各活動と発展を望むとともに、私自身もささやかでも、今まで以上の活躍を今後も続けたいと思います。



国鉄沼津クラブ

(昭和 36 年～昭和 62 年迄) クラブ員 渡邊 章

平成 29 年 (2017 年) に 70 周年設立を迎える沼津ソフトテニス協会に心からお祝い申し上げ、今後も更に前進し発展されることを期待いたします。

思い出を寄稿させて頂く私も 77 歳の喜寿を迎えます。誠に目出度くも感じられます。また今まで書で指導を受けてお世話になっています、「静岡県書道連盟」も創立 70 周年を迎え、一会员の私にも立派な「記念誌」が届けられ二重にも三重にも喜びで感激しています。この近況を胸に刻みながら、当時の「沼津軟式庭球協会」に入会し、関わった国鉄沼津クラブの仲間と懸命に各種大会に参加し、協会運営の一端を担えた事の経緯を寄稿させて頂きます。

私が国鉄へ入社したのは昭和 35 年で、昭和 36 年に東海道本線（湘南電車の沼津＝東京間）・御殿場線（SL での沼津＝国府津間）の起点の運転区の国鉄沼津機関区に配属されました。職場では労働運動で常に「春闘」と称して賃上げ、政治及び経済改革と言って闘争でのストライキの拠点となる職場でした。その地方局の国鉄静岡鉄道管理局では地域ごとに慰安会及びリクリエーションが実施され、文化・スポーツ・そして各種サークル活動も奨励されていました。また、配属職場は庭球を愛好する職員には都合良く、クレーの高い金網のフェンスで囲まれた庭球コートが一面あり、職員が休日や休憩時間を活用して楽しむことが出来ました。時にはコートで庭球のみならずバレーボールを行っていました。当時はこれも仕方なく、コートが痛むからと言って庭球のみ独占して使用することは出来ませんでした。私の入社前からコートには、現在沼津ソフトテニス協会で県内外ともに、活躍し協会運営にも中心的な役割をしている当時の明電舎沼津事業所の軟式庭球を愛好する方が休日に来られて練習、試合を行い、交流を深めあったようでした。

職場には中学、高校を通して軟式庭球を経験した優秀な愛好者が大勢いて対外試合を希望していました。同期入社し、後に協会副会長を務めた足立さんと協会入会を相談し、昭和 36 年に「国鉄沼津クラブ」の名称で「沼津軟式庭球協会」に入会しました。入会後は足立さんと二人理事、試合ではペアを組み、協会運営には進んで協力体制を執りました。各種大会の会場は当時高沢公園庭球コート（国鉄時代の SL が公園内に展示されている）で、当時大会前の準備でローラー引き、ブラシ掛け、石灰を溶かしてのライン引きを行い試合中でもラケットのグリップを白く汚していました。

それから 17 年後の 53 年度からは足立副会長、私が理事・事務長に渡辺福芳会長・一杉常昭理事長、その後の年度では、長橋正武会長に携わり馴れない事務運営に四苦八苦し良い経験を致しました。その後は明電舎齊藤様に事務長を引継がせて頂きました。

そして、昭和 62 年の国鉄民営化前に静岡鉄道管理局から現場に赴任し、その年の 4 月の国鉄民営化移行にともない、私は民間の医療機関に移りました。名称が「JR 東海 静岡支社 沼津運輸区」に変わったのを境に、国鉄沼津クラブは沼津ソフトテニス協会から脱会し

たと記憶しています。私もソフトテニスに改称された頃から、残念ながらソフトテニスから離れもう 32 年が過ぎてしまいした。

それでは、寄稿が前後しますが、昭和 53 年の協会事業での私自身が関わって記憶に残る事業を記述してみますと、第 1 回沼津インドア選抜大会（昭和 53 年 12 月）、第 1 回レディース大会（昭和 54 年 9 月）、第 1 回ヤマハカップ（昭和 54 年 11 月）、全日本招待沼津軟式庭球大会（昭和 57 年 12 月）などがあります。

第 1 回沼津インドア選抜大会の大会スローガンの横断幕は、私の書の師であり故人で、県書道界では実績、実力ありで日展に於いては連続入選をされていた、露木抱秋先生に模造紙に稽古終了を待って、毛筆で書いて戴きました。私にとっては貴重な「書」の作品でした。大会後の記念写真に写っています。

他にも各種大会の「書状」・「功労賞」・「各期レディーステニス教室修了証」を毛筆で丁寧に原稿を書いて戴きました。

遡りますが、昭和 36 年協会入会時の各大会の会場は当時主に高沢公園庭球コート、沼津東高跡の香陵庭球コートそして大岡テニスコートへと移り、当時発足後の硬式テニス事務長の山室様（現在、「山室記念杯」が沼津テニス協会で毎年開催されている。）と軟式庭球協会とコート使用の割当ての調整を行った事も在りました。その折々には大勢の先輩、同輩と巡り会った記憶が思い浮かびます。名前を挙げるに、既にご永眠された方もおられ失礼をお許し願い、深く胸に刻まれている男性では、医師の菅野先生、日置様、沼工庭球顧問の渡辺先生、庄栄町の数山様、商友の菅沼様、私が事務長期の会長の渡辺福芳様、長橋正武様、中学先生の石川様、プレイヤー・運営での高嶋様そして初又様、運営で几帳面な土持様そして一杉様が思い浮かびます。女性では、香貫の白石様、優秀なペアの広瀬・篠田様、そしてグリーンの庄司様が思い浮かびます。

沼津スポーツ祭等の参加時には、一般・成年の部で対戦した明電舎沼津事業所のプレヤーの斎藤、稻葉、村田、村端、篠崎様が思い浮かんできます。国鉄沼津クラブでは足立（三南）、小島（富士）、片岡（宮北）の国鉄同期入社で勿論、思い出の深い仲間でした。

以上、紙面に限りが有りますので、此の辺りでペンを擱かせて頂き、昭和 22 年設立し平成 29 年に 70 周年を「沼津軟式庭球協会」を経て「沼津ソフトテニス協会」に変遷し迎える今日までには、多く運営関係者がご尽力されてきた賜物であり、現協会の運営に携わる皆様方の今後のご活躍とご健勝、ご多幸をお祈り致します。

寄稿 平成 29 年 6 月吉日



私とソフトテニス

吉川 昭子

沼津ソフトテニス協会の70周年記念を心からお祝い申し上げます。

記念誌発刊にあたり、ソフトテニスの思い出を綴らせていただきます。

人の出会いは、不思議であり、ありがたいと思います。私は小学校6年の冬に母を病気で失い、4月より三島の中学校に入りました。

担任の先生がソフトテニスの国体選手で、ラケットもない私に1から教えてくださいました。先輩方も上手で憧れでした。先生のお陰で、男子は県大会で3位、私たちは準優勝でした。高校は、加藤学園（沼津女子高校）に入り、1年の時に、県で団体優勝した3年生についてインターハイ（全国大会）へ連れて行っていただき、とても感動して、いつか自分も行きたいと思いました。個人で2年、3年と行くことが出来ました。

高校の練習は、とても厳しく、あいさつ、返事、ボール拾い等々、364日練習で、修学旅行にもラケットを持って行き、素振りやトレーニングをしました。

上下関係もしっかりとしていて、何事も3年生からでした。高校3年生の冬に東京で行われた全日本私学インドア大会に向けて、夕方までは外で、その後は室内で練習しアンダーカットとジャンピングスマッシュ、そして左利きならではのテニスを覚え、優勝することが出来ました。

私にとって、ソフトテニスとの出会いは人生そのものです。ソフトテニスを通じて沢山の人と知り合い沢山の人に助けられています。

苦しい学生生活を体験していたからこそ、色々な事に耐えられる自信があります。1つの事を長く続けて来て本当に良かったと思っています。今は、沼津の中学校で指導していますが、「やってて良かった」と思えるよう、心身を鍛えたいと思っています。



西日本学生選手権優勝
(中京大学)



第27回 鹿児島国民体育大会

第一回小野杯（創設）

開会式 1964 年（昭和 39 年）

旧沼津商業高校コート

右から、長橋氏、菅野会長、小野 亮一氏遺族

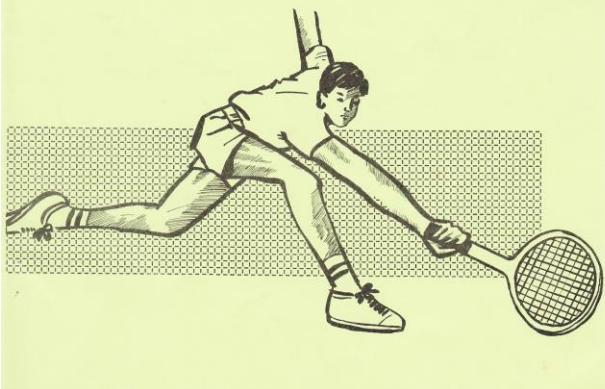


全日本招待 沼津軟式庭球大会

全日本招待 沼津軟式庭球大会 スマッシュ

日時 57年12月19日(日)
AM9:30~PM4:00

会場 沼津市民体育館
主催 沼津軟式庭球協会
後援 沼津市教育委員会
静岡県軟式庭球連盟
静岡県東部軟式庭球連盟



出場選手

(全日本代表)

沖田 豊作(後)



生年月日
勤務先
所属クラブ
最終学歴
球歴

昭和30年3月6日
川口市役所(川口北スポーツセンター)
川口市役所
専修大学
昭和57年度全日本選手権優勝
昭和57年度東日本選手権第3位

桜井 智明(前)



生年月日
勤務先
所属クラブ
最終学歴
球歴

昭和29年3月4日
川口市役所
川口市役所
明治大学
昭和57年度全日本選手権優勝
昭和57年度東日本選手権第3位

山本 弘(後)



生年月日
勤務先
所属クラブ
最終学歴
球歴

昭和34年1月15日
カワサキラケット
カワサキラケット
愛知学院大学
昭和56・57年度全日本選手権第3位
昭和57年度日本リーグ第2位

沼田 守弘(前)



生年月日
勤務先
所属クラブ
最終学歴
球歴

昭和33年11月7日
奈良県立高田商業高校
高田商高OBクラブ
日本大学
昭和56・57年度全日本選手権第3位
昭和57年度日本リーグ第2位

中本 和穂(後)



生年月日
勤務先
所属クラブ
最終学歴
球歴

昭和37年1月16日
学生
日本体育大学3年
昭和56・57年度全日本学生選手権優勝
昭和34年10月10日
奈良県立高田高校
日本体育大学
昭和54・55・56年度
全日本学生選手権優勝

井口 鉄郎(前)



生年月日
勤務先
所属クラブ
最終学歴
球歴



沼津ソフトテニス協会からは、村中・斎藤ペア、下山・篠崎ペア(明電舎)、石川・橘ペア(千本クラブ)が出場しました。



優勝は、当時、世界選手権覇者の
沖田・桜井ペア(川口市役所)でした。

入場券を発行しました。

'82.12.19(日) AM9:30~PM4:00

全日本招待沼津軟式庭球大会

於：沼津市民体育館

入場券

● 中学・高校生 200円
● 一般 500円

(200円引券発給)

主催：沼津軟式庭球協会

このビッグイベントは、第5代会長
長橋さんのご尽力によるものです。
(写真は、開会式での会長挨拶)

写真ランダム



第1回沼津インドア大会（1978年 昭和53年）



第1回レディース大会(1979年 昭和54年)



納会（1981年昭和56年）ブケ東海にて



納会（1982年 昭和57年）ブケ東海にて



第5回 全日本クラブソフトテニス選手権大会 優勝
沼津グリーン（1998年平成10年）

県連50周年（1999年 平成11年）



全日本実業団選手権大会 初のベスト16入り
明電舎（2006年 平成18年 秋田県大館市）